文革時は批判対象、今や中華文化のエース

孔子精神 中国で再興

研究機関、銅像も

孔子研究院の張立文院長。後方は孔子の銅像＝北京の中国人民大学で、五十川写す

北京の中国人民大学に儒学の拠点をめざす「孔子研究院」が誕生した。かつては近代化や社会主義化に反する「封建主義の道徳」と批判された孔子だが、今や、中国文化の神髄として光が当たっている。11月の共産党大会では、江沢民国家主席が「中華民族の偉大な復興を」と訴えたばかり。社会主義色が薄まるなか、中華ルネサンスの花が開き始めているのだろうか。

（北京＝五十川倫義）

人民大学は北京の学園街にある文科系の代表的な大学だ。江主席が4月に訪れ、「世界に知られる一流大学に育てよ」と命じた。

キャンパスには高さ3・5㍍の孔子の銅像が立つ。昨秋できたばかりで、台座に「中国の偉大な思想家、教育家」と彫られている。人民大学は80年代から学術研究会を開くなど、孔子の再評価の道筋をつけてきた。

大学の一室にある孔子研究院の事務所で、張立文院長は、「和」を貴ぶ精神など孔子の「優秀な部分」を広めていきたい、と語った。

研究院は30人近い大学の研究者たちを核にして、出版物、講習、学生キャンプ、テレビ、インターネットなどあらゆる方法で孔子の思想を全国に発信するという。世界に散らばる儒教の書物や文献を集めて数百巻の「儒蔵」を編纂する壮大な計画もある。共産党や政府が中華文化の発揚に本腰を入れ始めたため、研究者たちの士気は高い。

例えば、章新勝・教育次官は11月30日の研究院創立式典で、「孔子は我々中華民族の自慢であり、中国の伝統文化の象徴である。民族精神の推進を国民教育の全過程に入れなければならない」と、孔子思想の利用を具体的に示した。江主席は最近、「以徳治国」（徳で国を治める）と盛んに口にする。

背景に民族主義への傾斜

孔子・儒教批判　西欧の近代思想を広め、封建制度を批判した1910年代の新文化運動や五・四運動で、儒教道徳は封建制度を支えるものだとして攻撃される。建国後も批判的評価を受け続け、文化大革命期には、林彪批判と結びつけた「批林批孔運動」が展開された。

孔子と儒教は封建制度を支えるものとして20世紀初めから批判を受け、文化大革命期には林彪批判と結びつけた「批林批孔運動」も起きた。だが改革開放で評価は好転し、今度は再び中華文化のエースとして祭り上げられる様相となってきた。

共産党が中華文化の発揚に力を入れる背景には、政治や経済の変化がある。

11月の党大会で規約を改正し、「党は中国人民と中華民族の前衛部隊である」の一文を付け加えた。この大会では、私営企業の経営者の入党も認め、労働者・農民の政党から、「資本家」も含めた国民全体の党へと脱皮した。社会主義色がますます薄まるなかで強調されたのが、経済発展と「中華民族」という言葉だった。国民がまとまりやすい民族主義に一段と傾斜したといえる。孔子に再び、一働きの出番が回ってきたわけだ。

一方、人民大学の馮俊・副校長はグローバル化も中華文化発揚の理由に挙げる。世界の一体化の中で多くの文化が消えゆく危機にあるとし、「我々の文化を守るためには、孔子を宣伝していかなければならない」と訴える。

こうして「中華文化の復興」は、民族の誇りをかけて取り組む08年の北京五輪、10年の上海万博で弾拍車がかかりそうだ。

中華文化復興は、孔子以外の人物にも関心を向けさせる。人民大学は中国の思想家とその主張を一人ずつ木の板に書いて紹介する「百家園」を今年、学園に完成させた。孟子、老子、孫子、韓非子らも登場する。

孔子研究院で老子を研究する羅安憲博士は、「自然の道」にしたがう道家の思想は、自然との共生を求める現代にも価値をもつ、との考え方を示した。

孔子研究院長・張立文氏に聞く

現代も通じる和の理念

――研究院の役割は。

「（改革開放が始まったばかりの）79年、中国哲学史学会が成立し、孔子を公正に評価すべきだとの声が高まった。孔子を尊敬する時代も批判する時代も過ぎ、客観的、科学的に研究する時代にきている。青少年、大学生らに伝統文化、特に儒教を教える教育養成部を研究院の中に置いた」

――孔子のどこを評価しますか。

「『小人与女子難養也』（小人と女性はあつかいがたい）というような思想は修正しなければならない。だが、『己所不欲、勿施于人』（自分の好まないことを人に強いるな）などの思想にはいまも価値がある。優秀な思想は大いに発揚し、至らないところは修正する」

――孔子は現代にも有効でしょうか。

「孔子は『以和為貴』（和をもって貴しとなす）と言うとともに、『和而不同』（和して同ぜず）とも語った。違う意見はあるが、なごやかにつきあおう、ということだ。人と人、文明と文明との衝突も『和』の理念で対応すべきであり、これは儒家思想の現代における発展だ」

「『己欲達而達人』（自分が豊かになれば、人も豊かになることを望む）は、発展した国は他国をも発展させるべきだ、と読める。実際、発展しない国がますます貧しくなると、国際社会に紛争を招く大きな原因になる」

朝日新聞
©朝日新聞社 2002年
発行所 〒104-8011 東京都中央区築地5丁目3番2号
朝日新聞東京本社
電話 03-3545-0131

からだ
くらし
すこやかに
大日本製薬
www.dainippon-pharm.co.jp

紙面から

6 中国で孔子に再び脚光
2 4 平
3 4 保
7 米国
10 声特
13 貴乃

中国画報から

中国で「封建時代の道徳」と批判された孔子思想が脚光を浴びている。社会主義色が薄まり、民族主義に傾斜する中で、伝統文化の象徴として出番が来た。